

幻を去れ

あなたの申し分を聞いた時、私は深い同情を人一倍感じます。しかし働く身が、さまで不幸なのでしょうか。博士の奥様であつたら誰でも笑っているのでしょうか。金満家の令嬢だつたら誰でも幸福なのでしょう。もしそうだと決めているのです。たら、それはあまりに世の中を知っていないのです。私はどんな世界の人たちの訴えも聞きました。「金殿玉楼の内にも涙満つ」という言葉は、文字通り真理です。

先日ある所で聞きました。ある景色のいい町です。町内第一の金満家の話です。老人は泣き中風がついて、美しい別荘の中で金に飽かして看護婦二人に看護されつつ泣いてばかりいるそうです。それに近ごろは食物も咽を通らないので、滋養を注腸しているのだそうです。その方の若い息子は不治の肺結核です。ある病院に入院同じ肺結核で入院していなざる年長者の令嬢と恋におちて、同病の二人は結婚しました。別荘の中で二つのベッドが並べられて、この気の毒な夫婦は金の力で生きています。その家を継いでいる奥様は、主人が他に妾を置こうと芸者買いをしようと、じつと忍んで働いていなざるそうです。この一家がはたして幸福だと言えるでしょうか。

でも勉強さえしていたらと言うでしょう。勉強はしなければなりません。しかし学歴にとらわれてはなりません。学校を卒業することはいいことに違いありません。しかし生きた社会は単に肩書だけでは動きませぬ。ましてや、幸、不幸は断じて学校の卒業証書では決定いたしませぬ。それが人生の面白い所です。今の教育では学校の卒業生であることが、かえつてその人の天真爛漫の心情を傷つける場合さえ多く見受けられます。

県女を卒業した成績の優等生がありました。その方が大きな希望とあこがれをもつて校門を出て来ました。そうして両親のすすめや学校の先生のすすめで嫌々ながらある小学校の先生の所に結婚しました。その方は決して小学校の先生位の方と結解しようとは夢にも考えていなかったのです。もちろん不服でしたが、周囲の都合で無理に行かされたのです。それから今日まで十五年間、一日だつて夫に真の愛を捧げずに、五人の子供の母となりました。今その家庭は、墓場のやうに冷たいみじめなものになっていきます。その奥様は心霊の扉をと閉ざしきって、すさんだすさんだ心のために日も夜も泣いています。教育を呪い、夫を呪い、親を呪い、子供を呪い、はては生れて来たことを呪いつつ、子供も、夫も、生みの両親も、一切を血みどろにしながら暗のどん底に泣いています。十五年かかって閉じた扉です。私どもが五日三日の努力ではびくともいたしませぬ。はては、御本人すら、救われぬ自分を見ては泣いています。時にはヒステリーになつて自殺をはかります。今や一家は血みどろです。私は言うに忍びません。

「あゝ、妾は、なまじ貧しく生れていましたら……………県女など卒業しませんでしたら……………優等生などでなかったならば……………」とはその方の涙の中の叫びです。もちろん私は教育を呪うものではありません。しかし、この方は学校の生徒としての成功が人間としての失敗のもとになったのです。

私がこんな例を引くのも、あなたの「学校教育さえ受けたら……。」と
思っている
幻を消したいと思うが故です。
人生の幸福は決してそんなものでは決まりません。